フレスコ画古典技法

笹井　弘

はじめに

幼児教育学科・公開講座「美術への誘い・その５」は、平成26年８月４日、６日、８日の３日間の日程で実施された。受講定員10名に対して社会人８名が受講した。ほぼ夏空の晴天に恵まれ、水と顔料だけで描く描画方法（フレスコ：イタリア語でフレッシュの意）の爽やかさが実感された講座となった。

フレスコ画は、古代エジプトの神殿から始まりトルコのカッパドキア、イタリアの教会など地中海圏のキリスト教美術として発展しイタリアルネッサンス期に最も盛んに使われた技法で、アフレスコとフレスコ・セッコに大別できる。アフレスコは本講座で行った漆喰壁が乾く前に描く湿式法で、一般にフレスコと呼ばれ壁と絵画が一体となる技法である。それに対してフレスコ・セッコとは、壁面が乾いてから描く乾式法である。

４万年前に描かれたとされるフランスのラスコーの壁画は、今でも鮮やかな色彩とともに堅牢さを保持しているのは、結果的にフレスコ状態になったためであると云われている。描かれた洞窟内部の壁面が石灰岩だったために、漆喰壁面が濡れている内に描くフレスコと同じ原理で、長い時間をかけ溶け出した消石灰（水酸化カルシウム）の被膜が画面を覆い保護したと云われている。

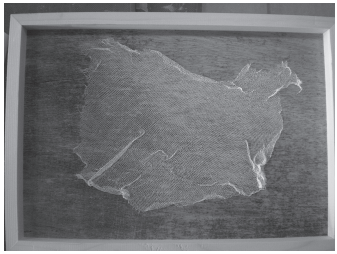
フレスコ画は画面が濡れている状態、正確には画面が水分を吸い込む時間内に描画を終了することで顔料を水とともに壁面内部へ吸収させることで壁面と一体となる。下準備が施された煉瓦製の壁面に厚さ約２ｃｍの漆喰を塗った場合、１時間ほど待った後、壁面が水を吸い込み始めてから約７時間程度描くことが可能である。システィーナ礼拝堂の祭壇画「最後の審判」と天井画「創世記」は、フレスコ画として最も有名であるが、16世紀ミケランジェロが５年の歳月をかけて完成したと云われている。漆喰壁の塗り継ぎから一日の仕事量が推測できミケランジェルの描画力に驚かされる。

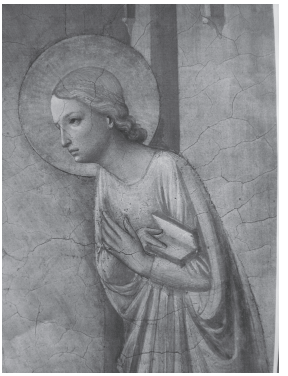
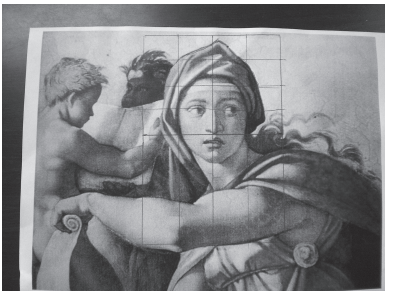
備考

描画の内容については、模写かオリジナル作品のどちらかを選び、模写の場合はミケランジェロの「最後の審判」部分か、あるいはフラ・アンジェリコの「受胎告知」部分とした。オリジナル作品の場合は、描画可能時間に制約があるため描画途中での迷いが生じないようにほぼ完成した下絵を準備していただいた。

また、今回はイタリアで開発されたフレスコ画保存方法(ストラッポ)を用いてパネルや壁面に描かれた絵を移動可能なタブローとして移し替える方法を公開した。

	8月4日　10:00 － 12:00　（晴れ）
講義内容	1、フレスコ画の歴史と基礎知識（スライド） ミケランジェロの「最後の審判」の祭壇画および天井画を中心にフレスコ画作品を鑑賞後、壁面に描いた場合の下塗り、シノピア、上塗り、下絵を写す方法、描画方法など制作手順、および材料とフレスコ画の原理を説明した。 ＜フレスコ画の原理＞ 焼成（二酸化炭素を放出）　水を加える　砂を加える　水を放出（乾燥） ↑　↓　↓　↑ **石灰岩**（炭酸カルシウム・大理石）→**生石灰**（水酸化カルシウム）→**消石灰**（酸化カルシウム）→ **描く** → **石灰岩**（ほぼ大理石） ↑ 二酸化炭素を吸収
	2、全工程の説明 8月4日（一日目） 特別下地塗・次回モルタル用消石灰の準備・川砂洗浄 ストラッポ実演　① 8月6日（二日目）石灰モルタル中間下地塗（下地塗は省略） 模写絵あるいはオリジナル作品の拡大図制作 ストラッポ実演　② 8月8日（三日目）壁面への加湿（ドライアウト・ウェットアウト） 上塗り（描画面） 1時間待つ（壁面が水を吸い込むまで） 描画（2から3時間） 完成 ストラッポ実演　③

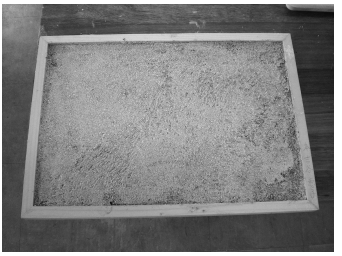
作業内容	1、特別下地塗り（漆喰の食いつきを良くする、ただし壁面の場合は不要）  川砂を洗い土やゴミなどを取り除き、砂３ボンド１の割合で混ぜ、Ｂ４パネルの裏側にコテで圧着しながら塗る（寒冷紗を前もって貼っておくと食いつき力が増す）

	8月6日 10:00 － 12:00 （晴れ）
作業内容	（最下層の下塗り１は時間の関係で省略した） １、漆喰下地塗り２（シノピア） 石灰１：砂２程度（１：１から３：１程度まで可） 石灰が多いと亀裂が入り易い、少なすぎるとぱさぱさになる。 ２日間乾燥させた特別下地の上に漆喰を一度に塗らず２回程度に分けてパネル回りから中心へ圧着しながら塗る。厚さは５mmから８mm程度だが、天候特に湿度に配慮し厚さを決める。
	２、模写絵あるいはオリジナル作品の拡大図の制作   フラ・アンジェリコ 「受胎告知」部分 ミケランジェロ 「最後の審判」天井画部分

	8 月 8 日 10:00 － 15:00 （曇り・時々にわか雨）
作業内容	1、下地がレンガや漆喰下地のような水を吸い込む材質の時は、霧吹きなどで水を加え、飽和状態の 50％ほどのしっとりとした感触にすることでドライアウト、ウエットアウトを回避する。 ＊ドライアウトとは下地の水分不足が原因で上塗りが剥がれ落ちる現象。ウエットアウトとは、水分過多で上塗りが剥がれる現象を言う。水分過多の場合は、スポンジや紙で吸い取る。 2、漆喰上塗り（描画面塗り） 砂 1,5：石灰 1　 2 回に分け 3 mm から 5 mm 厚になるように外側から中心へ圧着しながら塗る。 ←漆喰上塗り（描画面） ←漆喰下塗り 2（シノピア・下絵） ＊下塗り 1 は、省略 ↑特別下地（砂とボンド） ↑漆喰上塗り

（上塗り終了後１時間程待ってから漆喰面が水分を吸うことを確認して描画を始める、水分を吸わない場合は、紙などに水分を吸わせる）

１、描画開始（２時間から３時間）



上塗り完成

描画材料と道具

オリジナル下絵カーボン紙で
画面に写す

模写絵を画面に写す

オリジナル下絵を見ながら描く

模写絵を見ながら描く

考察（おわりに）

この講座は、今から５年前に実施した「幼児教育学科公開講座・美術への誘い１」に続いて２回目のフレスコ画講座となった。「美術への誘い１」の受講者と今回の受講者は１名重複したのみでほとんどがフレスコ画を初めて経験する受講者だった。そのため、左官仕事を初めて経験した。下塗りをコテで塗る際の力の入れ具合や漆喰の伸ばし方が不馴れなため乾燥後ひび割れが発生したものが３点ほどあった。下塗りのひび割れの場合、最初にひび割れ部分を漆喰で埋めてから上塗りを行うことで支障はなくなる。描画が完成した上塗り壁面にひびが入った場合は、修復不可能だが、ほとんどのフレスコ画作品で多少なりともひび割れを確認できるように物理的に致し方のない現象である。また、今回使用した顔料は、金額的に手ごろなフレスコ画用７色セットとして市販されているものを使用したが、受講者の多くが絵の心得があるため、金額は高くなるが色数を増やすことで受講者の満足感をより高めることができるのではないかと感じた。

講座日程は、工程毎に壁面の乾燥が必要となるため１日目半日、１日挟み２日目半日、１日挟み３日目終日と日数を要し、特に３日目の時間制限がある描画は誰もが集中力を最高に高めることとなる。待たされるスローな時間や砂や水と云った素朴な素材から、私たちが忘れかけていた何かを思い出す機会になったかもしれない。

なお、本講座では、便宜上壁面ではなくパネルに描いた。その際、研究補助費で購入した工作台を使用した。